

会 議 録

1 会議名

令和6年度第10回吉川区地域協議会

2 会長挨拶

3 議題（公開・非公開の別）

・報告事項（公開）

（1）会長報告

（2）委員報告

（3）事務局報告

・自主的な審議（公開）

（1）自主的審議事項「消火栓使用の在り方と有効活用について」

（2）自主的審議事項「尾神岳周辺の観光振興と道の駅よしかわ杜氏の郷の活性化について」

・その他（公開）

4 開催日時

令和7年3月27日（木）午後6時30分から午後8時25分まで

5 開催場所

吉川コミュニティプラザ 3階 大会議室

6 傍聴人の数

0人

7 非公開の理由

なし

8 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委 員：薄波副会長、太田委員、大滝委員、斉藤委員、関澤委員、田中委員、
田邊委員、新部委員、橋爪委員、武藤委員、山岸会長

・事務局：吉川区総合事務所 風間所長、山本次長、渡邊市民生活・福祉グループ
長（教育・文化グループ長兼務）、平原総務・地域振興グループ班長
熊木総務・地域振興グループ副主幹

9 発言の内容（要旨）

【山本次長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 委員 11 人の出席を報告
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・ 会議録の確認：新部委員

【山岸会長】

- ・ 挨拶

【山本次長】

- ・ 議長の選出について、上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 1 項の規定により山岸会長から議長を務めていただく。

【山岸会長】

- (3/27 地域協議会会長会議、3/13 総務常任委員会での消火栓に関する質疑応答について、3/19 道の駅活性化検討会について報告)
- ・ 次に委員報告をお願いします。
- (声なし)
- ・ なければ、事務局報告をお願いします。

【山本次長】

- ・ 事務局報告は 2 点ある。まず、廃校利活用に関する対話型市場調査について説明する。
- (概要を口頭説明し吉川区においては旧源小学校の校舎棟が対象である旨説明)
- ・ 次に、3 月 13 日の総務常任委員会 所管事務調査「住民自治・地域自治、地域協議会制度」について熊木副主幹より説明する。

【熊木副主幹】

(別紙「総務常任委員会資料【所管事務調査】」により説明)

【山岸会長】

- ・ 意見、質問はないか。
- (声なし)
- ・ 私はこの所管事務調査のスケジュールにこだわる必要はないと思っている。そもそも地域協議会にアンケートを取っただけである、私が言いたかったのは予め地域協

議会の意見を聞かなくてはならないという一項がある。ところが、公の施設、例えば公民館分館がなくなる時には最初に行政が地元に入って住民の了解を得てから地域協議会に打診してくる。これは、はたして予めになるのか。これを行政に聞いたら、市議会に上げる前が予めであるという答えであった。予めの意味合いはそういうことであろうか。すでに住民が了解してしまったものを改めて地域協議会にかけて何を求めようとするのか。反対の意見が出るわけがない。我々は地域住民の代表だから地域住民と全く違う意見が出るわけがない。予めという以上、住民に説明に入る前にこういう構成でこれから進めたいというところから始めるべきではないか。そうでないと地域協議会の存在意義がないと私は捉えている。また、公募公選制に拘っているが、これがあるから我々は緩やかな拘束力を総合事務所に対して持っている。今この提案は半分が団体推薦で半分は公募である。そもそも公募公選制がなければ我々が地域協議会としての権限がどこにあるかとなりかねない。これを取り払ってしまうことに私は非常に危惧している。団体の代表である人はこの委員の中にも何人かおられる。それを改めて半分以上を団体の代表、半分は今までどおりと区切ること自体必要あるのか。公募し定数が割れた場合、今まで委員や行政側で声掛けをしている。それを改めて分けようとしている。これは問題があるのではないかと思う。まず前提は準公選制の公募をすべきである。我々が本来、定数割れにならないようにするにはどうしたら良いか、誰でも委員に応募できるようなやりがいのある協議会にするにはどうしたら良いのか。どういうことをしたら皆が委員になったらこういうことができるのだということを考えてもらえるのかということ。これを我々自らが協議すべき立場のはずである。総務常任委員会で地域政策課がアンケートを元にこのような提案をしてきているが、これは提案として受け止め、このスケジュールはあるが、これから我々自身がどうあるべきか、協議会は今後どうしたら公募した時に手上げが多くなるか、男性だ、女性だ、若者だ、壮年だとかいうことではなく、手上げをして定数を超えたら選挙になるという元々のやり方を尊重すべきではないかと思う。そんなことを含めて皆さんと今後協議したい。何か意見はないか。

(声なし)

- ・今日の会長会議で、参加者から 28 区を 6 地区くらいに分けて地域自治推進プロジェクトに関する説明と意見交換をしてもらえないかという提案があった。実現するかどうかわからないが部長には申し入れしてある。この件についてこれで良いか。

なければ次第4自主的な審議に移る。まず、(1)自主的審議事項「消火栓使用の在り方と有効活用について」である。これについて、皆さんから今後どのような進め方をしたら良いかをお聞きする。武藤委員いかがか。

【武藤委員】

- ・八木副市長が前向きに検討すると言われたのであれば、それを待つので良いのではないか。

【橋爪委員】

- ・私も基本的はそう思う。吉川としても意見書として出している。それがきっかけでこういう風に動いているので今すぐどうというのではなくもう少し待った方が良くと思う。

【新部委員】

- ・回答待ちも一つだと思う。少し気にしているのがホース1本の支給が市の予算としていない。集落として何か所も補充しなくてはいけないので負担になる。集落の危機管理からすれば行政がホース代の負担をなぜしないのかのが、不安であり不満である。私としてはなぜ行政で負担しないで、町内で負担することになったのか疑問である。

【山岸会長】

- ・後ほど事務局に答えてもらう。

【田邊委員】

- ・市からの回答待ちで良いと思う。言ったからとしてもただのやり取りにしかならないと思う。

【田中委員】

- ・本当はすぐにしてもらいたいことだが、市議会が動いているということなので、市議会で話を進めて行くことかと思っている。どうやって入り込んでいったら良いのか私にはわからない。

【薄波副会長】

- ・私は「待ち」と言うのはすぐに答えは出てこないと思う。答え方の一つであって「検討します。」というのでいつまでという日にちを明示した訳ではないので、よくあるパターンで「時間ができたら検討します。」というレベルではないかと思うので、答えはいつ返ってくるかわからない。今の状態でずっと続くということになる可能性が多分にあると思う。私は、できるところは個別に進めておくのが良いと思う。今

の回答からすると全市的な回答である。そうではなくて、地元を考えた時には地域性があるのだけでもなんとか解決する方向で動くのが良いのではないかと思います。色々なやり方があると思うので様々な手法を使って、この地域協議会だけではなく、元々は原之町の町内会の方から出ているので町内会としても色々な動きをしていくつもりだ。

【太田委員】

- ・なぜ市が使っていないかという、危ないということで多分ストップがかかっていると思う。ホースを備えるとか経費が掛かることに対しては多分良い返事はもらえないと思う。とりあえず安全に消火栓を使う方法をまず吉川区の考え方としてはっきりさせておいた方が良いと思う。直江津の街中と私が住んでいる源地区は条件が違う。吉川はこういう風にやった方が良いのではという意見がある程度まとめておいた方が良いと思う。待っているのではなくて、こちらからこういう意見を考えたのでどうかというのを市に話をするのが良いのではないかと思います。

【大滝委員】

- ・私も太田委員が言ったとおりだと思う。多分回答を待っていても、なかなか迅速に動いてくれない。そこで迅速に動いてもらえるような手段みたいなものを考えながらも1回意見書なりを出した方が良いのではないかと思います。ホースの値段はそんなに高くはないが、実際替えたとしても住民が使えなければ替えても意味がない。この回答を待っていると迅速には動いてくれないと思う。皆でなにか手法を考えてアクションを取った方が良い。

【斉藤委員】

- ・八木副市長は「検討させていただく。」という回答をもらったので、前向きに捉えてもらったのではないかとというのが率直な感想である。今後、どういう風な回答や話があるのかは不明ではあるが、とりあえずどういう市の案が出てくるのかを見守っていききたい。

【関澤委員】

- ・この間、総務常任委員会の傍聴に行った。吉川から出た意見書について消防庁に聞いたかと言ったら、「聞いていない。市独自で判断した。」と答えた。そんな話はない。近所で火事になったことがある。消火器で消えないので消火栓を使った。消防車はすぐに来ない。30分も経てば1軒が燃えてしまう。この実態を市の行政が本当に知っているのか。もう少し吉川区地域協議会として一般の人でも使えるような仕組み

みにしてもらいたい。私は、この件については意見書というより嘆願書を出した方が良いのではないかと思う。

【山岸会長】

- ・先ほどの新部委員の質問に事務局で答えられる部分あるか。

【山本次長】

- ・消火栓格納箱の管理、中のホースを含めての質問だったと思うが、手元にある資料の範囲だと旧町村時代は各町村で取扱いも様々であった。吉川町の場合は町で設置し、町で随時更新していたと思う。平成 17 年に市町村合併の際に上越市の制度にある程度合わせる部分があり、それに合わせたという経緯がある。

【山岸会長】

- ・新部委員、それで良いか。確か格納箱には 20m ホースが 3 本あった。私はこのまま待つというのは良くないと思っている。市から前向きな返答があったが、「検討する。」止まりであるのでいつまでにというのはない。橋爪市議が追及した国や消防庁としての定めがあるのか。頸北斎場の廃止問題があった時にシンポジウムをやった。消火栓の問題についてもそういう方向で地域協議会として向かったらどうか提案する。国や消防庁から来てもらって市危機管理課の担当からも出てもらう。それから住民代表と我々と、もちろん消防団も。この辺で寄ってシンポジウムを開いて色々やり取りさせてもらったらどうかと思っている。ただ手をこまねいて出方を見るということは、地域協議会が意見書を出してあの答弁で納得しているのかと思われる。私はもう一度意見書を出しても良いと思っている。前回の協議会で話した各区では消火栓をどのように取り扱っているかを聞くアンケートを出した。それを元に我々としても協議したいということを添えて地域政策課の確認をしてもらった上で 28 区全域にその区の消火栓に対する取扱いについて聞くアンケートをお願いしてある。どれだけ回収できるかはわからないが、決して他区と一緒に徒党を組んでどうのこうのということではなく、吉川区は吉川区として住民が現に危険や不安と思っていることを取り除く立場に我々はある。それを協議する役割だから、そういう不安を少しでも軽減する、取り除くことに動かなければ一体誰が動くのか。我々はその立場である。行動を起こして住民の不安や不満を解消していく方向に動く立場である。ぜひこの辺を委員の皆さんに考えていただきたい。

【関澤委員】

- ・私もその考えである。他の地域協議会でも取り上げられると良いが、それが問題だ。

5つか6つくらいの地域協議会で出れば行政も動かざるを得ない。シンポジウムを開くか何かをしていきたい。

【山岸会長】

- ・市議会では市全体の消火栓の扱いに関して、今行政側とやり取りしている。我々は吉川区として、この区に設置してある消火栓をどのように有効利用するかによって住民の不安を取り除いていけるかを協議しなければならない。そこは「意見書を出した。返事が来た。それでいい。じゃあ待つか。」ではないと私は思う。改めて聞く。考えに変わりはないか。

【武藤委員】

- ・先ほど嘆願書と言う意見があったが、それを切に願っている人が多いのであれば署名を集めて出すというのはどうか。

【橋爪委員】

- ・意見を変えろと言うように取れるが、強制的に我々に意見を求めるのは酷かと思う。皆さんが言われる通りもあるし、それぞれの考えなので良いが、ただ先ほどの「様子を見る」というのは黙っているという訳ではない。その必要に応じてということになる。

【新部委員】

- ・私も多少時間はかかると思うが、すぐに回答を求めるというのはどうかと思う。この問題は大きな問題だと思う。無駄な問題ではないと思うが、住民の大多数が本当にそう思っているのか、本当に最重要の問題だと思っているのかどうなのかと思う。不安はあると思う。歴史的な所は分からないが、昔の吉川区はそういう風に使われていたのに、今使われないというのは分かっている人もいるし、覚えていない人もいる。大多数の住民がそこに本当に不安に思っているかというのは、どうやって把握すれば良いのか難しい。確かに不安に思っている人はいると思うが、それをどこまで強く押せるかと思う。仮にそれほどでもないことであつたら、撤回することができるのかどうかというところなのかな。本当に大多数の意見を把握しているのか。

【田邊委員】

- ・私もずっと待っているという訳ではない。できることをできるように、何か案があればそれを少しでも進めて行って、市の回答を待って、それに対して意見を出して少しずつ前に進めるようなやり方をもう少し考えた方が良い。

【田中委員】

- ・先ほど薄波副会長が原之町は独自に進めて行くと言ったが、総会があるので話すのかと思ったが、ほかの町内会でも総会があると思うので、その時に私達が出した意見が新聞にも載っているんで、これを検討してもらう話を各町内会の人にしたら意見がもらえるのではないかなと思う。いつでも使えるように訓練をしたらという意見もあったが、それもそこで「ああ、そうだね。」という意見があれば、訓練に参加する人も増えるかなと思う。既成事実ではないが、「吉川の人はいくらでも消火栓を使いたい。」とアピールすることができるのではないかな。

【山岸会長】

- ・別に意見を変えろと言う意味で言っているのではない。両方の意見が出ているので、進める側の意見を聞いていかかと言う意味であった。言葉足らずであつたら謝る。火災と言うのは、皆さんが承知のとおりいつ起きるかわからないし、どんな状況になるかわからない。住民が不安に思っていることが現実だとすれば、それを協議会として放っておいて良いのかという立場で私はいる。協議会はそのような組織だと思っている。吉川区内でも色々な条件があつて、消火栓があつても使える人が1人もいないという所もあるのかもしれない。ただ、使える条件が揃っているのに使わせないという状況があるというのも現実としてある。だとして、使える状況が整った所は使えるようにしてあげれば良いのではないかなという私達の申し入れだった訳である。それを危機管理課は一律に建て前で切っている訳である。何とか更に協議会として意見書なりを出す場面もあると思う。シンポジウムという形を取らせてもらえれば皆さんの意見もその場で聞ける。もちろん町内会長連絡協議会の方でもやると思う。市の状況を待つという意見と現在拮抗している。どちらの意見も半々位であるが、私としてはできることはやって行きたいと思っている。そんなことで、やっても良いか。2か月、3か月待つ間に例えば「原之町で（火災が）起きた。長峰団地で（火災が）起きた。あの時一歩踏み出していれば」ということにならなければ良いと思っている。ぜひ行動を起こすべきではないかなと思っている。とりあえずシンポジウムが一番妥当かなと思っている。関係の専門家を招いて会議を持つということをもまずは取り組んでみたらどうか。それと意見書をもう1回出すという2つの方法があると思っている。

【太田委員】

- ・使ってはいけないという意識は皆持っていない。「使ってはいけない。」というと、「ええ、使ってはいけないのかね。」という答えがほとんどである。だから、皆使っ

て良いものだと思っている。「なぜダメなんだ。」「誰が決めたんだ。」という人もいる。一般の人はダメだとは思っていない。ダメだという触れは出ていない。火を見れば水を出す。なぜダメなんだというのが地域協議会に来て理解できなかった。もう1つ、分団の編成でかなり消防団員も少なくなった。村屋にも消防車が1台あるが、それを扱う人がほとんど地元にはいないという状況である。ほかの地区に勤めに出ている。私の地元には消防団員がいないので、団員として消火栓が使える人はいない。その辺をよく考えてもらいたい。駆けつけてくるのは、頸北消防署が一番早いかもしれないが、一番近い消防車が一番動けないという状況にある。消防車があっても動かせないという状況だ。だから、初期消火というのは大事かと思う。

【山岸会長】

- ・先ほど町内会で嘆願書という話が出ていたが、そういう方向性も一つあるか。

【薄波副会長】

- ・嘆願書と言うか請願書。

【山岸会長】

- ・請願書の方を考えて行かれるかと思う。我々は協議会として広く意義を広めるという立場であるので、広くは専門家の意見の意味で、不安に思う住民の感情を私達がどう受け止めるかということがもっと大事だと思う。そんな向きでとりあえずシンポジウムに向かって良いか。

(「よろしい」の声あり)

【薄波副会長】

- ・シンポジウムを進めるのは良いが、地域協議会としてシンポジウムをすることはできない。地域協議会は、そういう立場、位置づけではない。主催者を地域協議会にすることはできない。

【山岸会長】

- ・お聞きのとおりである。シンポジウムの主催者には、協議会の名前ではできない。参加する組織としては入るという形で行きたいと思う。では、消火栓については、以上とする。
- ・次に「若者の移住定住につながる魅力的な子育て支援策について」に関して関係機関と直接話をしたいと言ったが、小学校とは既にどこかのタイミングで保護者と話をさせてもらえないかと話してある。中学校と保育園に関しては、4月頃、改めてお願いするつもりである。これについては、今のところはそういう状況である。も

う一つは、道の駅と尾神岳の観光に関しての活性化について定住とも繋がっていて、吉川の活性化に大事である。これに関して、先ほど道の駅活性化検討会について報告させてもらったが、今後の動きとして皆さんから何か提案があればお願いしたい。関澤委員いかがか。

【関澤委員】

- ・ 昨年、尾神でコンサートをやったが、あのような形でやれば結構人が集まる。それも観光協会の都合もあるので毎週できる訳でもない。そうかといって、その近くで尾神そばの店をやっていたが食べに行くお客がいなくて無くなった。また、山菜祭りは少し賑わうが、その時期だけのものである。継続的に年間活性化ということは難しい。

【橋爪委員】

- ・ 尾神については道が先か施設が先かと私はいつも思っている。人を呼ぶためには何が必要か、そのためには道も必要であるし、建物も必要である。長峰については、話を聞くと酒祭りとかいろいろな所から、道の駅と言う割にはこんなものかという声も外部から多い。今、道の駅というと非常に大きくなっていて、農作物とか色々なものがあって、温泉も入れる足湯もあるとか、そういうのが広まっている中で、誰を呼んで広げようかというのをまず検討しないと難しい。尾神も国外の人、県外の人を呼ぼうとすると、あの道で本当に誰か来てくれるのか非常に難しい。今、海外の人で 8 割、9 割の観光を占める妙高などは、なぜ来るのかというと、SNS である。外国人の方が良く知っている。こんなおいしい店がある、こんな良い所があるというのは、日本人よりも、地元の人よりも海外の人の方が良く知っているという状況なので PR のやり方と誰に PR するのかということを明確にしていかないと方向性が難しい。

【山岸会長】

- ・ 他にないか。

【新部委員】

- ・ 今の橋爪委員と同じであるが、尾神の遊ランドは良いが、道が危ない。地元の人でも危ないと思っている。やり方次第だと思うが、よしかわ杜氏の郷は、それなりに後ろのところが広く、緑もあるし何かアイデアを募って、手近に人を集められるイベントなりをする。酒まつりのようなイベントを増やそうとするのは無理である。その人たちが今の時代 SNS で宣伝してくれる。集まるというのは、我々が良かれと

思っていることではなくて、おいしいコメと食べ物だけでも本当に集まる。アイデア次第だと思う。

【山岸会長】他にいかがか。

【田中委員】

- ・私も、そこは地元に人が集まる場所というのを基本に考えたら良いのではないかなと思う。今はコンビニしか商業施設がない。パン屋もないし、高校生がちょっと集まってお茶を飲む場所もない。ちょっと買い物ができる場所も原之町には無くなってしまっている。公園にしたら子どもたちも遊べて良いスポットだと私は思う。車中泊ブームも少し下火になってきたのかもしれないが、温泉も入れるし、お酒も試飲ができれば最高だと思う。地元の人も楽しめるというのがあったら良いのではないかなと思う。

【太田委員】

- ・長峰は酒祭りの会場になり、私も良い所だと思った。高速道路の柿崎インターからのアクセスも良い。今日もあそこを通ったが土が出ていてあまり人が集まるような雰囲気ではない。ちゃんと芝生とかを整備して、色々なサークルの人が使えるようにしたら良いのではないかな。例えばキャンプファイヤーとか、あそこであれば良いのではないかなと思う。あと尾神岳だが、パラグライダー位しか観光がない。私も1年に1回も上がらないこともある。パラグライダーだけではダメだと思う。道を良くしなければいけないというのわかるが、では道を良くした先に何があるのだと言ったら、パラグライダーくらいしかないでは同じことだと思う。答えはないが、何かをやって人が上がるから道を良くしようということになってくるのかなと思う。1年の半分は雪の中であるし、実動できるのは半分しかない。その辺も考えて行かないといけない。

【新部委員】

- ・私は最近飯山の花の駅がすごくきれいにしていて、誰がお金を出しているのか分からないがすごくきれいになっている。地元のお年寄りが集まってお茶を飲んだり、ご飯を食べたりしている。長峰の道の駅も今度元アイスクリーム屋さんの場所がインフォメーションセンターになると言ったが、とにかくきれいにしなければいけない。古い椅子と机しか並んでいないのではいけない。年配の人が集まる場所にできるのではないかなと思う。多少のお金を出せば良い施設になるのではないかなと思う。

【橋爪委員】

- ・さきほど話のあった芝生にしてバーベキューだと私は思う。

【山岸会長】

- ・他にいかがか。多分関係してくるのは、観光協会と商工会とまちづくり吉川かと思う。まさに活性化検討会のメンバーではあるが。1 回地域協議会と意見交換会などを持ったらどうか。ここに主だった役員もいるが、いかがか。

【薄波副会長】

- ・時間があればやりたいと思う。今話が出た道の駅活性化検討会が2週間ほど前にあった。そこで今皆さんが言われたような意見が出てきていて、道の駅については本来であれば、専門のデザイナーを入れて道の駅全体を構成し直すような改革をしていった方が良さだろうと意見があったが、そこに行くまでには非常にお金がかかる、では今の状態でどうするかと言って、とりあえず元のアイスクリーム工場を情報発信施設に改修という案が進んでいる状況である。それに伴ってあの建物の全体が長屋的な感じがあったり、冬の風貌も風除室があったりとか、なかなかデザイン的にイメージが良くない道の駅になっているので、あそこは全体が非常に良いので道の駅全体の外観だけでも良くした形へ改装なりをすれば見栄えも良くなるのではないかというのと元のアイスクリーム工場と情報発信施設と四季菜、くつろぎ長屋が全く別物で建ててしまったために一体性がない。通しの通路を1本作って冬でも行き来できるようにするとか話が出ていた。今回の元のアイスクリーム工場の改装に合わせて色々な動きが出てくると思う。まちづくりでやっていた酒祭りも元のアイスクリーム工場を使って試飲会場を設けるとかすれば一体感が生まれてくるので人も集まるのではないかと思っている。道の駅はそういう形で活性化検討委員会が進んでいるのでそこに上げる情報として皆さんの細かな情報を検討する場はあっても良いと思う。最後に尾神岳の観光については、先日天岩戸の尾神岳伝説のイベントがあった。その時に色々な歴史がらみの人達が来て昔の話をしてくれたが、その中に吉川出身の若者が2人来て、キャンプ場を作るという夢を話した。いつ実現できるか分からないが可能性は十分ある。

【橋爪委員】

- ・聞いている話では吉川では各団体長会議があって、吉川の将来的なことを考えようという組織があるようなので、そういう所で全体的なところを共有してもらって各団体に持ち帰っていただきそれぞれ検討し、大きな所で情報を共有して盛り上げてもらおうと良い。

【山岸会長】

- ・他にないか。

【新部委員】

- ・キャンプ場はすごく良いと思う。大池、小池ではテントが多くある。今、ブームになっている。

【山岸会長】

- ・今日の会長会議の中でも地域ビジョンを検討していこうということになっている。ある会長が既に「地域活性化の方向性」を作ったのにさらにまたビジョンを作るのかという質問をした。所長、どう答えたかちょっと説明していただきたい。

【風間所長】

- ・地域自治推進プロジェクトでイメージしている地域ビジョンというのは、以前作成した地域活性化の方向性をもう一度皆さんで磨き上げてほしいということであった。前期に考えた地域活性化の方向性を皆さんでもう一度共有していただき、どういう風にしたら地域が良くなるかということを考えていただければと思う。細かい手法やスケジュールが後日示されると思うが、そういう方向で進めていただければという話であった。

【山岸会長】

- ・ということで、今の尾神については多分こちらの方で進める方向性があるのかと思っている。道の駅は国・県の補助事業をもっと活用すべきだと思う。3つの道の駅全体をどういう風に進めて行くべきかを行政側も考えなければいけない。我々は活性化検討会の中で練り上げて行くことになると思う。いずれにしても相手のあることであるので意見交換をしたいと言っても良いということになるかはわからないが、新年度になってからどこかで地域協議会と各団体と意見交換をしたらどうか。
- ・他になければ、次に自主的な審議(3)その他に移る。委員で何かあるか。
(声なし)
- ・では、5その他に移る。皆さんの方で何かあるか。

【薄波副会長】

- ・先月からの色々な事業について報告する。
(3/8 新酒と料理を楽しむ会, 3/16 天岩戸伝説勉強会, 頸北地区4区住民組織懇談会について報告)

【斉藤委員】

(中学1年の学年だよりで地域おこし協力隊との交流について報告)

【山岸会長】

- ・次に事務局にお願いする。

【山本次長】

- ・新年度の吉川区に係る予算概要については、例年4月の地域協議会で配布しているが、今回は地域協議会の開催が1週間延び、市議会3月定例会も終了し予算が確定したので本日お示しできる状態になったので資料を配布した。

(令和7年度吉川区に係る予算概要等について概要を説明)

(道路工事に伴う通行規制について説明)

【山岸会長】

- ・最後に次回の地域協議会の日程について確認する。4月17日、木曜、午後6時30分からで良いか。

(異議なし)

- ・最後に閉会の挨拶を薄波副会長にお願いする。

【薄波副会長】

- ・以上で第10回吉川区地域協議会を閉会とする。

10 問合せ先

吉川区総合事務所 総務・地域振興グループ

Tel : 025-548-2311 (内線 213)

E-mail : yoshikawa-ku@city.joetsu.lg.jp

11 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。